



神戸製鋼所のアルミニウム事業部門は自動車材料を紹介。合金黄銅8など独自の銅合金導電性と、樹脂の断熱

ニジミ樹脂を一体化する。アルミニウムの放熱性や

ピンホールの発生を抑える新製法(ハイブリ

ド)はマグネシウムアッパ(模型)で、品質の妨げとなる

のモックアップ(模型)に並ぶ三本柱の一つとして育ってきた。10年

ジオラマの説明を受ける大井社長(手前から2人目)

だき、お客様との対話を重ねてきました。

## 一ヶ月を読む

Market Trends

### 17年度上期市況見通し④

久保和広氏

LMEのアルミニウム3カ月物は、トン2000ドル弱で安定しやすいと予想する。需給は均衡状態に近く、引き締まった状況にある。夏場のガソリン需要とともに原油の上昇が期待できるのと、アルミニウムの支援材料になる。

国際通貨基金(IMF)が2

017年の世界の実質国内総生産(GDP)成長率を3・

4%と予想する中で、アルミニウム需要は単純に前年比2・8%

増える可能性がある。需要の伸びをカバーするには、供給は3・5%増を必要とする。

ところが、オーストラリアでは電力不足による生産が押さえられている。中国でも生産量が大きく増えづらい。LME在庫に苦労する。潤沢な選択はなく、選択は過

ぎ難い。一方、一段高が困難だと思うときほど、なぜか相場は上に

行きやすくなる。一方、一段高が困難だと思うときほど、なぜか相場は上に

## 需給均衡、2000ドル弱で安定しやすい

アルミニウム

のLME移しそう行ではある。LMEのアルミニウム3カ月物は、トン2000ドル弱で安定しやすいと予想する。需給は均衡状態に近く、引き締まった状況にある。夏場のガソリン需要とともに原油の上昇が期待できるのと、アルミニウムの支援材料になる。

国際通貨基金(IMF)が2017年の世界の実質国内総生産(GDP)成長率を3・4%と予想する中で、アルミニウム需要は単純に前年比2・8%増える可能性がある。需要の伸びをカバーするには、供給は3・5%増を必要とする。

ところが、オーストラリアでは電力不足による生産が押さえられている。中国でも生産量が大きく増えづらい。LME在庫に苦労する。潤沢な選択はなく、選択は過

ぎ難い。一方、一段高が困難だと思うときほど、なぜか相場は上に

行きやすくなる。一方、一段高が困難だと思うときほど、なぜか相場は上に

行きやすくなる。

## 心理的な節目2000ドル超えが焦点

アルミニウム



ロンドン金属取引所(LME)のアルミニウム3カ月物は、心理的な節目でもあるトン2000ドルを、どのタイミングで超えてくるかが焦点となるだろう。今の価格水準だけを見れば、高いとの印象は受けれる。

江守哲氏

アルミニウム

LMEのアルミニウム3カ月物は、トン1800—2000ドルを予想する。LME在庫の減少傾向やキャンセルワントの増加基調が続くようなら、心理的な節目である2000ドルを瞬間的に超えてくる場面がありそうだ。

LMEアルミニウム在庫は4日時点での186万3050トントと、ピークだった550万トント近くから減少が続いている。キャンセルワントと呼ばれる出荷待ち状態の在庫は、直近で85万4925トントと高止まり。

新たに動かせる在庫が101万トント近くしかないことが、アルミニウム相場が上がりやすい環境を作り出している。

アルミニウムは2015年を起点に緩やかな上昇トレンドに入っている。通貨高の局面では、や同水準で貰う人が出てきた。アルミニウム相場を動かしていくのが、投機マネーだけではないことがうかがえる。

商品を代表する原油が値を上げれば、アルミニウムにもさらに上昇圧力がかかるだろう。原油市場では買い過ぎた投機筋による手仕舞いが入つており、ポジションの解消後に再度上値を試すとみる。

足元の原油を取り巻く環境は良くない。ただ、原油価格の戻りが鈍いようなら、7月

## キャンセルワント増で2000ドル超えも

東京アルミニセンター社長

江川壮一氏



橋本アルミニ取締役

橋本健一郎氏

アルミニウム

## 1900—2100ドル、米・中・原油動向注視

中国動向については、現地アルミニウム精錬が当局の環境問題の標的にされているため今後も減産が続く。電力源である石炭も注目されており、こちらも抑制されアルミニウム地金の供給不足に拍車がかかる。

原油価格は、OPECと非OPEC減産効果から、WTIが50ドル近辺まで回復したが、その水準で米国の原油生産量の増加やシェールガス増産もあり足踏み状態。ただし、リビアの供給生涯や長期的にはOPECの減産延長の可能性もあり50ドルは超えてい

## グレンコア減産解除で2400ドル中心

亜鉛

国際亜鉛相場は、海外大手のグレンコアが4—6月期に鉱石減産を解除した場合、という前提条件で、トン2400ドルを中心とした上下200ドル程度のレンジを予想する。解説の時期が遅れたり、解除が段階的に行われたりすれば、相場は予想レンジの上方へ寄っていくそうだ。

グレンコアの鉱石減産と15年下期の2つの大規模鉱山の閉山で、年100万トン(亜鉛量)相当の原料供給が市場から消えた状態。地金の減産によって早晚つながるとみた投機筋に買われ、足元の相場は2600—2700ドル前後と小高い。実際に年明け以降、韓国、中国の亜鉛製錬最大手は減産の構えを見せ始めた。地金需給が今後もつともタイト化しそうなアジアに向けて、米国からの輸出が急増する感覚的な動きもある。

地金の消費量は中国をはじめに堅調。ただ、価格が上昇すれば、減産解除の可能性を含めて、鉱山の増産傾向は強まる。鉱石不足がさらに1年も2年も続くとは思わない。

地金の消費量は中国をはじめに堅調。ただ、価格が上昇すれば、減産解除の可能性を含めて、鉱山の増産傾向は強まる。鉱石不足がさらに1年も2年も続くとは思わない。

本拠

三井金属工業部事業統括部長兼金属営業部長

斎藤修氏